

第 12 回通常社員総会議案書

- 第 1 号議案 2024 年度事業報告(案)について
- 第 2 号議案 2024 年度決算報告(案)・監査報告について
- 第 3 号議案 2025 年度事業計画(案)について
- 第 4 号議案 2025 年度収支予算(案)について
- 第 5 号議案 役員体制について

2025 年 5 月 26 日 16 : 00～16 : 40
一般社団法人日本電子デバイス産業協会



一般社団法人日本電子デバイス産業協会 2024 年度事業報告(案)
(2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

一般社団法人日本電子デバイス産業協会

2024 年度の世界経済は、ウクライナ問題が継続、中東情勢の緊迫化と地政学的なリスクが継続し、各国の経済政策の動向に注意が必要な状況が継続しているものの、底堅く推移してきましたが、米国のトランプ大統領の誕生とともに不確実な状況が増えてきました。

一方、電子デバイスを取り巻く市場は、パソコン、スマホ向けの需要は今一つ盛り上がりませんが、生成 AI の活用に向けたデータセンター等の IT インフラ拡大向けの需要が増加し、電子デバイス産業はほどほどの状況で推移しました。

こういった中で NEDIA は次の 10 年へのスタートを迎え、「第 11 回電子デバイスフォーラム京都」、「第 11 回通常社員総会」、「2025 年新春セミナー・新年会」等のイベントを開催しました。また、「電子デバイス戦略マップ 2024-2025」の発刊及び説明会を実施、電子デバイス研修講座を WEB 配信併用で実施などチャレンジングな施策を実行するとともに、「NEDIA Day 東北ふるかわ 2024」「NEDIA Day 九州ながさき」などのセミナーを開催し、会員支援及び産業界支援につながる諸施策を推進しました。また、NEDIA マガジンの発刊等の会員のコミュニケーションを図る施策を推進しました。

会員の皆様のご支援・ご協力により、以上のイベントを着実に実施するとともに、会員規模も、2013 年 9 月 30 日のスタート時の 198 会員から 260 会員(2025 年 3 月 31 日現在)に増加しました。

1. 「第 11 回電子デバイスフォーラム京都」を開催

2024 年 10 月 31 日(木)、11 月 1 日(金)に京都リサーチパーク (KRP)において、「新時代の日本半導体/電子部品の飛躍戦略を探る!!」をキャッチフレーズとして、「第 11 回電子デバイスフォーラム京都」を開催しました。

今回は、昨年の第 10 回記念大会と同等レベルの参加者数を目標として、プログラム委員会において電子デバイス関連の最新の興味あるテーマに関する意欲的なプログラムの策定に力を入れました。また、遠隔地からの参加の利便を考慮し、昨年度に引き続き WEB 配信併用という形で開催しました。

昨年に引き続き中会議室 A において「車載電子デバイスパビリオン」を企画し、また、「マーケティングセッション」も継続して実施し、WEB 参加も含め参加者 350 名(第 10 回：340 名、第 9 回：320 名、第 8 回：290 名)、延セッション参加数 1300 名(第 10 回：1260 名、第 9 回：1,120 名、第 8 回：970 名)と過去のピークとなるたくさんの方に参加いただき開催できました。

参加者の交流を深めるレセプションを昨年に引き続き開催し、多くの方に参加いただき盛況でした。例年通り舞妓の舞も実施しました。

参加いただいた会員、電子デバイス関連産業の方々、また、プログラム策定、プロモート及びセッション等の運営にご尽力いただいたプログラム委員及びボランティア各位に感謝申し上げます。以下に、「第 11 回電子デバイスフォーラム京都」の開催報告をします。



(1) 開催概要

- ①開催日時：2024年10月31日(木)10:00-11月1日(金)17:30
- ②場所：京都リサーチパーク(KRP)
東地区1号館4階：サイエンスホール、G会議室、中会議室A、B、C、ホワイエ、ASTEM：10階会議室、アトリウム、西地区4号館B1：バズホール、バンケットホール
6会場、セッション数：17、講演数：51、展示ブース数：18、ポスター展示：3と昨年と同規模で実施しました。
- ③「車載電子デバイスパビリオン」：昨年に引き続き、中会議室Aにおいて、(株)村田製作所殿のご協力により種々の自動車・電動バイク等に搭載の電子デバイスを展示しました。
- ④セッションごとに作成している17冊の予稿集について、昨年に引き続きカラー印刷とし参加者の便宜を図りました。また、昨年に引き続きWEB併用としました。

(2) 挨拶・基調講演、マーケティングセッション等

- ①挨拶・基調講演は10月31日(木)10:00から西地区4号館B1バズホールで実施しました。昨年に引き続き9:30からウエルカムコーヒーをバンケットホールに準備し、参加者に利用いただきました。
- ②挨拶・基調講演は司会を中村孝氏(NEDIA理事、プログラム委員長、大阪大学)が務め、齋藤昇三 NEDIA代表理事・会長、組織委員長の開会挨拶で始まりました。冒頭の来賓ご挨拶で、鈴木一弥 京都府副知事にお言葉をいただき、松井孝治 京都市長のご挨拶を産業観光局理事の松井康史様に代読いただきました。基調講演は、最初に(株)産業タイムズ社の泉谷 渉 取締役会長に「電子デバイス産業は異次元の成長段階に突入したのだ！！～シリコン列島ニッポンによる新たな国おこし～」と題しご講演いただきました。続いて関西企業代表として三菱電機(株) 先端技術総合研究所 副所長の西沢昭則様に「先端技術総合研究所における研究戦略」と題しご講演いただきました。最後に東京エレクトロン(株) 経営戦略室 室長の西村和哲様に「半導体製造装置業界の役割と将来への成長に向けて」と題しご講演いただきました。会場220名、WEB参加を含めて250名を超える多数の参加者に熱心に聴講いただきました。
- ③マーケティングセッションは、第4回から引き続き独立したセッションとして11月1日(金)9:20から東地区1号館4階のサイエンスホール及びG会議室(サテライト)を会場として実施しました。電子デバイス分野における第1線でご活躍のアナリスト3名の特別講演で構成し、会場で220名、WEB参加も含めて250名を超える多数の参加者で熱気のあるセッションとなりました。最初に「生成AIが牽引し再成長に向かう半導体・装置・電子部品業界」と題し(株)産業タイムズ社 大阪支局長 電子デバイス産業新聞 副編集長の中村 剛様にご講演いただき、続いて、「2025年度以降のグローバル市場動向と注目すべき半導体市場の今後の見通し」と題し、インフォマインテリジェンス合同会社 シニアコンサルティングディレクターの南川 明様にご講演いただき、最後に、「フラットパネルディスプレイ・CMOSセンサ業界・スマホなど完成品業界見通し：25年、AI機能がスマホやPC買換えを牽引する？ 技術変化や今後の注目点は何か？」と題し、みずほ証券(株) エクイティ調査部 グローバル・ヘッド・オブ・テクノロジー・リサーチ/シニアアナリストの中根康夫様にご講演いただきました。
- ④A～Eの5コースのセッションを、10月31日(木)午後、11月1日(金)午後に合計15セッションで構成し、参加者それぞれに興味あるセッションを聴講いただきました。Aコースは「環境エネルギー」をテーマに「環境エネルギー総論」、「カーボンリサイクル」、「パワーエレクトロニクス」の3セッション、Bコースは「新時代のデジタル」をテーマに「DX総論」、「次世代通信」、「AI」の3セッション、Cコースは「The半導体」をテーマに「半導体の市場・技術動向」、「装置技術・プロセス技術」、「デバイス技術・応用」の3セッション、Dコースは「跳躍の最先端パッケージ・実装技術」をテーマに「最新のパッケージ・実装技術動向」、「光

通信デバイス」、「高密度実装」の3セッション、特別セッションは、産学連携の「大学セッション：マテリアル先端リサーチインフラ」、「核融合」、「中・韓・印 アジア半導体産業の最前線を追う！」の3セッションとしました。

15セッションのうちWEB参加も含めた聴講者の多い順は、①「装置技術・プロセス技術」、②「半導体の市場・技術動向」、③「最新のパッケージ・実装技術動向」、④「中・韓・印 アジア半導体産業の最前線を追う！」、⑤「高密度実装」、⑥「デバイス技術・応用」であり、世の中の動向と参加いただいた方の興味がどこにあるかが伺えます。

(3) レセプション

昨年に引き続きレセプションを、10月31日(木)

17:00-18:30 にアトリウムで開催しました。

今回は、例年行っている舞妓の舞を行い、150名を超える参加を得て、いい雰囲気のレセプションとなりました。司会は(株)産業タイムズ社 特別顧問の佐藤文治氏が務め、17:00 に開始しました。主催者挨拶を齋藤昇三 NEDIA 代表理事・会長が行い、続いて京都企業代表として、(株)SCREEN セミコンダクターソリューションズ 代表取締役 社長執行役員の岡本明彦様のご挨拶があり、その後に、(株)村田製作所 代表取締役副社長の岩坪浩様の乾杯の発声により、交流の場が始まりました。



17:30 頃から舞妓さん1名に芸妓さん1名による舞で、華やかな雰囲気となり、舞台の前が観賞及び写真撮影の場となりました。舞の終了後、芸妓さん、舞妓さんは会場を回り参加者と写真を一緒に撮ったりしました。その後、司会の指名で、井手愛香 苫小牧市 主事、南川 明 インフォーマインテリジェンス合同会社 シニアコンサルティングディレクター、中村 孝 プログラム委員会委員長、廣田良浩 プログラム委員会副委員長、不破保博 プログラム委員会委員のご挨拶がありました。最後に、小石秀之 (株)堀場製作所 取締役の締めの挨拶があり、レセプションはお開きとなりました。終了後、知己の方同士で、京都の街に繰り出すグループも見られました。

(4) 展示会

展示会は、ホワイエ及び中会議室 A でおこないました。ホワイエは昨年と同様に 15 ブースとし、ゆったりした配置で開催しました。中会議室 A では昨年に引き続き「車載電子デバイスパビリオン」を開催しました。

① 展示参加会社：11 企業・団体、4 大学(50 音順)

エヌディアアイ(株)、(株)SCREEN セミコンダクターソリューションズ、セイノーホールディングス(株)、田中貴金属工業(株)、苫小牧市、ニッタ・ジュポン(株)、ハイデルベルグ・インストルメント(株)、(株)堀場製作所、(株)村田製作所、リソテックジャパン(株)、ローム(株)、大阪大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、山形大学

② ポスター展示は 2 企業・団体

野村マイクロ・サイエンス(株)、SEMI ジャパン

NEDIA 戦略マップ委員会(電子デバイス戦略マップ 2024-2025)

(5) アンケート結果

①フォーラムの全体的な構成について：プログラムは時流に合っている 40%、プログラムは全体的に満足でき

る 40%と合わせて 80%と、多くの参加者の評価をいただきました。

③ フォーラムの運営について：良い 50%、まあまあ 30%と、まずまずの評価をいただきました。

④ 次回についての参加について：是非参加したい 30%、プログラムが良ければ参加したい 45%と合わせて 75%の方は再び参加いただけるとの感触を得ました。

2. 「電子デバイス戦略マップ 2024-2025 社会に貢献する電子デバイス技術」を発行 「電子デバイス戦略マップ 2024-2025 説明会」を実施

戦略マップ委員会(委員長：齋藤昇三 代表理事・会長、2024年9月から鶴丸哲哉 理事・副会長)において、2016年度に「NEDIA 戦略マップ 2015」、2017年度に「NEDIA 戦略マップ 2017」、2018年度に「電子デバイス戦略マップ 2018」、2019年度に「電子デバイス戦略マップ 2019」、2020年度は「電子デバイス戦略マップ 2020-2021」、2021年度は「電子デバイス戦略マップ 2021-2022」、2022年度は「電子デバイス戦略マップ 2022-2023」、2023年度は「電子デバイス戦略マップ 2023-2024」と8冊を発刊してきました。

2024年度は9冊目となる「電子デバイス戦略マップ 2024-2025」(A4版160ページの冊子)を社会に貢献する電子デバイス技術をテーマにまとめ、2024年7月31日に発刊しました。前回と同様、書籍コードを登録し正規の書籍としました。各会員に1冊を無償配布し、その後、会員(1,500円：税込み)及び非会員(4,070円：税込み)に有償頒布しました。

会員等への無償頒布：365部、会員・非会員への有償頒布：88部の計453部を頒布しており、会員及び電子デバイス産業の関係者の考慮の一助になったと考えています。

電子デバイス戦略マップを広く活用いただくためには、内容について説明会を開催するのが効果的との観点から、昨年度に引き続き説明会を開催しました



「電子デバイス戦略マップ 2024-2025」説明会 ～社会に貢献する電子デバイス技術～

開催日時：2024年12月25日(水)13:00-17:00 開催場所：学士会館 203号室

参加費：NEDIA 会員 4,000円、一般 8,000円 (電子デバイス戦略マップ 2024-2025 1冊含む)

参加者：26名

<説明会>

司会：戦略マップ委員会事務局員 松本 哲郎

①13:00-14:10 「電子デバイス戦略マップ 2024-2025 で考える”未来社会”への貢献」

NEDIA 理事・副会長、戦略マップ委員長 鶴丸 哲哉 氏
戦略マップ委員会事務局員、戦略マップ主筆 松本 哲郎 氏

②14:10-15:00 「電子デバイス技術とともに進化する電化・電動化」

戦略マップ委員会 副委員長、九州大学情報科学研究院 教授 寺島 知秀 氏

15:00-15:10 休憩

③15:10-16:00 「主要分野における DX 化最新動向と生成 AI」

戦略マップ委員会 委員、(株)日立ソリューションズ・テクノロジー

⑤ 16:00-16:50 「半導体が創る未来社会」

戦略マップ委員会 委員、モルガン・スタンレーMUFG 証券(株) MD

和田木 哲哉 氏

3. 「電子デバイス研修講座(入門編)(基礎編)(特別編 A)(特別編 B)(専門編)」を開催

人材育成研修委員会(委員長：西村光太郎 理事)において、2019 年秋季に電子デバイス研修講座(基礎編)を立ち上げ、2020 年秋季に(中級編)を立ち上げ、2021 年には秋季に(専門編)①②③を立ち上げ、2022 年度には秋季に(入門編)を立ち上げ、体系的には完成となりました。新型コロナウイルス感染拡大への対応、遠隔地からの参加の利便を図るために、2021 年度から会場と WEB 参加を併用して実施しており、2024 年度も引き続き WEB 併用を実施しました。(中級編)の位置づけが分かりにくいという声もあり、名称及び内容を見直し 2024 年度春季講座から(特別編 A)(特別編 B)としました。

2024 年度春季講座(入門編)(基礎編)(特別編 A)(特別編 B)は 5 月に開催、2024 年度の後半の講座については 2025 年 2 月に(入門編)(特別編 A)(特別編 B)(専門編)実装技術 を開催しました。

(1) 2024 年度春季講座

① 「電子デバイス研修講座(入門編)」

開催日時：2024 年 5 月 8 日(水)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：18 名

② 「電子デバイス研修講座(基礎編)」

開催日時：2024 年 5 月 7 日(火)10:00-17:00、8 日(水)10:00-17:00 (二日間)

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：24 名

③ 「電子デバイス研修講座(特別編 A)」

開催日時：2024 年 5 月 7 日(火)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：14 名

④ 「電子デバイス研修講座(特別編 B)」

開催日時：2024 年 5 月 8 日(水)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：23 名

(2) 2024 年度後期講座

① 「電子デバイス研修講座(入門編)」

開催日時：2025 年 2 月 26 日(水)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：13 名

② 「電子デバイス研修講座(特別編 A)」

開催日時：2025 年 2 月 18 日(火)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：9名

③「電子デバイス研修講座(特別編 B)」

開催日時：2025年2月19日(水)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：7名

④「電子デバイス研修講座(専門編)実装技術」

開催日時：2025年2月25日(火)10:00-17:00

開催場所：日本教育会館喜山倶楽部 WEB 配信併用

参加者：8名

4. 展示会への出展

展博委員会(委員長：井内伸哉(㈱インターテック販売 顧問))で「第11回電子デバイスフォーラム京都」の展示(1.(4)項参照)を行いました。

また、Medtec Japan 2024 及び SEMICON Japan 2024 に出展しました。

①「Medtec Japan 2024」に出展

開催日：2024年4月17日(水)～19日(金)

場所：東京ビッグサイト東2ホール No.3508(2小間)

会員のポスター展示：4社

②「SEMICON Japan 2024」に出展

開催日：2024年12月11日(水)～13日(金)

場所：東京ビッグサイト東7ホール No.7401(3m×3m)

会員のポスター展示：5社

5. 部会・地域活動

(1) ベンチャー部会 (部会長：押部弘 理事・副会長)

経済産業省のご協力を得て令和7年度予算・関連施策についての説明会をWEB配信で行いました。NEDIA ゴルフコンペを1回実施し、ベンチャー部会研究会、納涼会も開催しました。

①「第7回ベンチャー部会研究会」を開催

開催日時：8月19日(月)15:00-17:00

開催場所：学士会館302号室

15:00-15:05 開会挨拶 NEDIA 理事・ベンチャー部会長

押部 弘 氏

15:05-16:00 「備えあれば憂いなし 日本を元気にする会社の体力づくり方法公開」

トータルサービスマネジメント(株) 新宿支店 支店長

近藤 喜則 氏

16:00-16:55 「社員の能力を引き出す『動カマネジメント』とは？」

エヴァンリード(株) 代表取締役

中西 文太 氏

参加者数：31名

②「納涼会」を開催

開催日時：8月19日(月)17:00-18:30

開催場所：学会館 203 号室

参加費：6,000 円

参加者数：34 名

③「NEDIA 第 11 回ゴルフコンペ」を開催

開催日：2024 年 10 月 2 日(水)

開催場所：平成倶楽部

スタート時間：9:52 Out/In コース 各 3 組スタート

プレー料金(各自清算)：¥16,400(キャディ+カート+昼食付)

+ 賞金・パーティ費 4,000 円(別途徴収します)

参加資格：NEDIA 会員 または、NEDIA 会員推薦者

参加者数：6 組 23 名

④「令和 7 年度政府予算・関連施策 説明会及び JST 事業化支援 説明会」を開催

開催日時：2025 年 3 月 13 日(木)10:00-11:40 Web 開催

参加資格：NEDIA 会員

参加費：無料

Teams で開催、資料は会議終了後送付

プログラム

10:00-11:00

第1部 「令和 7 年度政府予算・関連施策 説明会」

(1) 全体の説明

全体方針と予算一覧表での概要説明

(2) 各施策・事業の説明

IoT、モノづくり、エネルギー関連の施策を予定

(3) 質疑応答

説明者：経済産業省 商務情報政策局

情報産業課 デバイス・半導体戦略室 係長

山口 祐生 氏

11:10-11:40

第2部 「JST 支援事業「研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP)、

産学共同・実装支援の説明」

説明者：国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)

スタートアップ・技術移転推進部 研究支援グループ 主査

杉本 亮太 氏

実装支援グループ 主査

原口 智全 氏

参加者数：30 名。

(2) 装置・保守部会 (部会長：南洋一 理事・副会長)

交流会を開催し、部会員会社のコミュニケーションの向上を図るために、装置・保守部会交流会の開催を検討したが、開催まで至りませんでした。

(3) 材料部品部会 (部会長：佐藤中則 理事)

勉強会を4回開催し、会員が必要とする情報を幅広い講師に依頼して実施しました。

① 「第43回材料部品部会勉強会」を開催

開催日時：2024年6月24日(月) 14:00-16:20

開催場所：御茶ノ水めっきセンター 4F

14:00-15:00 「ガラスサブストレートの時代の到来」

インターコネクション・テクノロジーズ(株) 代表取締役

宇都宮 久修 氏

15:00-15:20 休憩

15:20-16:20 「Apple 第3のヒットとなるか Apple Vision Pro の実装と半導体」

セミコンサルト 代表

上田 弘孝 氏

参加者数：40名

② 「第44回材料部品部会勉強会」を開催

開催日時 2024年9月30日(月) 14:00～16:40

開催場所 喜山倶楽部 光琳の間

講演スケジュール

14:00-15:00 「世界半導体市況の2024年後半以降の動き

～日本、あるいは日系企業の取るべき戦略～」

クロスバーク合同会社

大山 聡 氏

15:00-15:10 休憩

15:10-16:40 「半導体業界の明るい未来」

モルガン・スタンレーMUFG証券(株) 調査統括本部

マネージングディレクター

和田木 哲哉 氏

参加者数：69名。

③ 「第45回材料部品部会勉強会」を開催

開催日時 2024年12月23日(月) 14:00～16:40

開催場所 喜山倶楽部 光琳の間

講演スケジュール

14:00-15:00 「最新の実装技術 キーワードはモジュール、QFN/DFNそしてガラス」

(有)エー・アイ・ティ 代表取締役

加藤 凡典 氏

15:00-15:10 休憩

15:10-16:40 「ニッポンの半導体装置/材料の時代がやって来た！！

～AIの世紀に必要な技術・量産がキーワード」

(株)産業タイムズ社 取締役会長

泉谷 渉 氏

参加者数：47名。

④ 「第46回材料部品部会勉強会」を開催

開催日時：2025年3月24日(月) 14:00～16:30

開催場所：御茶ノ水めっきセンター 4F

講演スケジュール

14:00-15:00 「医療・ヘルスケア機器による Self-Monitoring の重要性」

市民健康長寿ネット研究所(兼 横浜市立大学医学研究科)

山末 耕太郎 氏

15:00-15:10 休憩

15:10-16:40 「センシング技術を利用した医療機器の開発と実用化の課題」

ティア・リサーチ・コンサルティング合同会社 代表社員

内海 潤 氏

参加者数：30名。

(4) デバイス部会 (部会長：周藤仁吉 常務理事・事務局長)

デバイス部会は、具体的テーマを策定して勉強会方式で課題に対する解及び新たな事業を見出すのを目的としており、2024年度は、AIをテーマに検討しましたが、目立った進展はありませんでした。

(5) 九州 NEDIA (代表：櫻井一郎 理事)

「NEDIA Day 九州ながさき」を開催しました。

「NEDIA Day 九州ながさき」を開催

開催日時：2025年2月27日(木)セミナー：14:00-17:00

開催場所：ホテルセントヒル長崎 出島の間

後援：経済産業省九州経済産業局、長崎県

<セミナー>

司会 三宅賢治 氏(NEDIA 理事・九州 NEDIA 副代表)

14:00-14:05 主催者挨拶 NEDIA 代表理事・会長

齋藤 昇三 氏

14:05-14:10 ご来賓挨拶 九州経済産業局 地域経済部 情報政策課長

田口 賀徳 氏

14:10-14:15 ご来賓挨拶 長崎県 産業労働部 次長

井内 真人 氏

14:15-15:00 「ソニーのイメージセンサー事業の展望と長崎への期待」

ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) 長崎 TEC 長

石川 良光 氏

15:00-15:10 休憩

15:10-16:00 「長崎大学における産学連携による

マイクロデバイス研究開発・人材開発・拠点形成のご紹介」

長崎大学 マイクロデバイス総合研究センター 副センター長

大貝 猛 氏

16:00-16:55 「九州シリコンアイランドの新時代が始まった

～ニッポンの夜明けを作った長崎に大注目～」

NEDIA 理事・副会長、(株)産業タイムズ社 取締役会長

泉谷 渉 氏

16:55-17:00 閉会挨拶 NEDIA 理事・九州 NEDIA 代表、

櫻井精技(株) 代表取締役社長

櫻井 一郎 氏

<交流会>

17:10-18:40 ホテルセントヒル長崎 妙見の間(A)

参加者：セミナー：64名、交流会：55名

2月27日夕方のNHK長崎放送局のローカルニュースに2分間程度の放映がありました。

(6) 関西 NEDIA (代表：中村 孝 理事)

関西 NEDIA では、2024 年度も第 11 回となる SSIS-NEDIA 関西シンポジウムを開催しました。

「第 11 回 SSIS-NEDIA 関西シンポジウム」を実施

開催日時：2024 年 8 月 29 日(木) 13:00-18:30

開催会場：大阪科学技術センター 7F 701 号室 および 7F レストラン
大阪市西区靱本町 1-8-4

主催：一般社団法人 半導体産業人協会 (SSIS)
一般社団法人 日本電子デバイス産業協会 (NEDIA)

司会：SSIS 理事・関西地区委員長

井上 道弘 氏

13:00 - 13:10 開会の挨拶 SSIS 理事長

野澤 滋為 氏

13:10 - 13:20 ご来賓挨拶 近畿経済産業局 地域経済部 次長

前原 誠 氏

13:20 - 14:20 「AI が牽引して成長する半導体市場」

(株)産業タイムズ社 大阪支社長 電子デバイス産業新聞 副編集長 中村 剛 氏

14:20-15:20 「AI 半導体と AI チップ設計拠点」

産業技術総合研究所 招聘研究員 内山 邦男 氏

15:20-15:35 休憩

15:35 - 16:35 「エッジ AI の実応用：近接覚センサを用いた高速ロボットマニピュレーション」

大阪大学 基礎工学研究科 システム創成専攻 助教

(株)Thinker 取締役

小山 佳祐 氏

16:35 - 16:45 閉会の挨拶 NEDIA 代表理事・会長

齋藤 昇三 氏

■ 「交流会」

17:00 - 18:30 7F レストラン

参加者数：39 名、台風 10 号の影響でキャンセルが多数ありました。

(7) 東北 NEDIA (代表：川添良幸 理事)

昨年度に引き続きアルプスアルパイン(株)の新しい仙台開発センター(古川)で「NEDIA Day 東北ふるかわ 2024」を開催しました。

「NEDIA Day 東北ふるかわ 2024」を開催しました。

開催日時：7 月 16 日(火) 13:00-16:35

開催場所：アルプスアルパイン(株) 仙台開発センター(古川)

共催：東北大学 未来科学技術共同研究センター

後援：経済産業省 東北経済産業局

13:00-13:05 開催挨拶 NEDIA 理事・東北 NEDIA 代表

東北大学未来科学技術共同研究センター シニアリサーチ・フェロー

川添 良幸 氏

13:05-13:25 来賓ご挨拶 宮城県 知事

村井 嘉浩 氏

来賓ご挨拶 東北経済産業局 局長

戸邊 千広 氏

来賓ご挨拶 大崎市長

伊藤 康志 氏

来賓ご挨拶 大衛村 村長	小川 ひろみ 氏
13:25-14:15 「窒化物半導体の結晶成長とそのデバイス応用」 東北大学 未来科学技術共同研究センター 特任教授	松岡 隆志 氏
14:15-14:55 「ソニーの半導体レーザ事業の歴史と展望」 ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) アナログ LSI 製品部門 LD セクター長	古嶋 裕司 氏
14:55-15:05 休憩	
15:05-15:45 「JSMC ホールディングスの紹介と事業概要」 JSMC ホールディングス(株) 代表取締役社長	呉 元雄 氏
15:45-16:30 「東北シリコンコリドーの時代がやってきた！ ～デバイス、装置など半導体関連企業の集積急ピッチ～」 NEDIA 理事・副会長、(株)産業タイムズ社 取締役会長	泉谷 渉 氏
16:30-16:35 閉会の挨拶 NEDIA 代表理事・会長 セミナー終了後、バスで交流会場に移動	齋藤 昇三 氏
<交流会>	
開催日時：7月16日(火) 16:55-18:15	
開催場所：アインパルラ浦島	
18:15～ 交流会場から JR 古川駅までマイクロバスで送迎	
参加者数：セミナー：179名 交流会：155名	

6. 委員会活動

(1) アクションセミナー委員会(委員長：甕 秀樹(株)産業タイムズ社)

平日の夕方に開催し主として関東の会員に情報を提供するためにアクションセミナーを企画し、注目市場について、アクションセミナーを3回開催しました。

① 「第36回アクションセミナー」を開催

開催日時：2024年11月19日(火) 17:00-18:30

開催場所：喜山倶楽部 光琳の間

17:00-17:50 セミナー

テーマ：「24～25年の半導体・製造装置・材料産業の動向と25年以降のトレンド展望」

(株)産業タイムズ社 事業開発部 部長/NEDIA アクションセミナー委員会 委員長 甕 秀樹 氏

17:50-18:30 質疑応答および意見交換会

参加者数：27名

② 「第37回アクションセミナー」を開催

開催日時：2025年2月25日(火) 17:00-18:30

開催場所：喜山倶楽部 光琳の間

17:00-17:50 セミナー

テーマ：「25年の半導体・電子デバイス市場、気になる「あの問題」を探る」

(株)産業タイムズ社 事業開発部 部長/NEDIA アクションセミナー委員会 委員長 甕 秀樹 氏

17:50-18:30 質疑応答および意見交換会

参加者数：17名

③「第38回アクションセミナー」を開催

開催日時：2025年3月13日(木) 17:00-18:40

開催場所：喜山倶楽部 光琳の間

17:00-18:30 セミナー

テーマ：「半導体産業の利益率はどうして高いのか？ 自動車産業と比較してみる」

(株)レゾナック フェロー

近藤 誠一 氏

18:30-18:40 質疑応答および意見交換会

参加者数：26名

(2) 戦略マップ委員会 (委員長：齋藤昇三 代表理事・会長、2024年9月から鶴丸哲哉 理事・副会長)

NEDIA ならではの戦略マップの策定を2015年から開始し、2024年度は委員会を9回開催し、未来社会の変化を見据え、社会に貢献する電子デバイス技術 をテーマに議論を進め、2024年度は9冊目となる「電子デバイス戦略マップ 2024-2025」を2024年7月31日に発行しました。書籍コードを登録し、正式の書籍としています。

2024年度の委員会活動としては、コロナで変化する未来社会をイメージアップし、未来社会を創る注目技術を整理、評価し、未来社会の実現につなげる技術を明らかにすることを主眼として進め、引き続き「電子デバイス戦略マップ 2025-2026」を発行することを目指して検討してきました。まとめる方向については、2025年新春セミナーで報告し、また新春記者会見でプレスリリースしました。

また、会員を含めた関係者に活用を図っていただくために、2021年度から説明会を企画しており、第4回説明会を2024年12月25日(水)に実施しました。

(3) 新事業創生委員会 (委員長：南 洋一 理事・副会長)

NEDIA としての新事業及び会員の中での新事業創生に向けた活動を行っています。

- ① 電子デバイス分野にアプローチするエヌディアイ(株)を2018年6月21日に設立し、2021年度からは電子デバイス研修講座の運営委託を行っています。
- ② 会員間の業種間のマッチングの仕組みの検討を進めています。

(4) 電子デバイス・応用システム設計環境委員会 (委員長：小篠隆宏 理事)

電子デバイス、応用システムの設計活動が活発になり、電子デバイス産業の拡大に寄与するような枠組みを検討中です。

(5) コンプライアンス委員会 (委員長：漆原育子(アーズ(株)))

独占禁止法遵守等の法令への対応及び知的所有権についての対応を検討していきます。知的所有権については、知的所有権分野の会員の連携を模索しています。

(6) 展博委員会 (委員長：井内伸哉(株)インターテック販売))

展博委員会は、NEDIAに関連した展示会への対応を行いました。(4. 項参照)

(7) 人材育成研修委員会 (委員長：西村光太郎 理事)

世の中の変化が急速に進み必要なスキルが変化しつつある中で、電子デバイスに携わる方々が持つと効果的なアイテムを選定し教育研修していくことで、会員及び電子デバイス産業関連の発展に寄与することを目的として電子デバイス研修講座の拡充・体系化の推進を行なっています。

2024年度は、電子デバイス研修講座(中級編)の位置づけが分かりにくいため、(特別編 A)(特別編 B)への改組を実施しました。5月に(入門編)(基礎編)(特別編 A)(特別編 B)、2025年2月に(入門編)(特別編 A)(特別編 B)(専門編)実装技術 を開催しました。

7. 本部イベント

(1) 第11回通常社員総会・交流会

「第11回通常社員総会」を2024年5月27日(月)16:00-16:45に喜山倶楽部飛鳥の間で、会場での通常的方式で実施しました。正会員数164のうち出席28、委任状提出67件で合計95の過半数の出席を得て、齋藤昇三代表理事・会長を議長として飛鳥の間で開始しました。報告・説明は前面スクリーンにスライドを投射して行いました。

第1号議案：「2023年度事業報告(案)について」及び第2号議案：「2023年度決算報告(案)・監査報告」、第3号議案：「2024年度事業計画(案)」、第4号議案：「2024年度収支予算(案)」及び第5号議案：「役員改選」の説明を行い、質疑の後、第1号議案・第2号議案、第3号議案・第4号議案及び第5号議案について採決を行い、委任状で賛同いただいた正会員および出席正会員の過半数の賛成を得て原案どおり承認されました。最後に齋藤議長より会員及び役員に対して NEDIA 発展のために協力を要請して社員総会はとどこおりなく閉会となりました。社員総会終了後、WEB 会議併用方式で臨時理事会を開催し、代表理事・会長に齋藤昇三理事を選出し、その他の理事の役職等を決定しました。

通常社員総会后、＜交流会＞(17:00-18:30)を実施しました。

交流会参加者数：71名

(2) 2025年新春セミナー・新年会の開催

2025年の新春セミナー・新年会を2025年1月27日(月)に喜山倶楽部で開催しました。

2024年末で学士会館は閉館となりましたので、2025年から喜山倶楽部に復帰しました。

「2025年新春セミナー・新年会」を開催

●新春セミナー

日時：2025年1月27日(月)14:00-16:55

場所：喜山倶楽部光琳の間

14:00-14:05 主催者挨拶 NEDIA 代表理事・会長 齋藤 昇三 氏

14:05-14:55 「2025年は電子デバイスの飛躍の年、半導体は100兆円乗せ
～AIが強烈な引っ張り役、設備投資は国内外で活発化する！～」
株産業タイムズ社 取締役会長 泉谷 渉 氏

14:55-15:45 「電子デバイス戦略マップ2025-2026の概要
～大きく変わる世界の環境、トランプとAI～」
NEDIA 理事・副会長、戦略マップ委員会委員長 鶴丸 哲哉 氏
戦略マップ委員会事務局員、戦略マップ主筆 松本 哲郎 氏

15:45-16:00 休憩

16:00-16:45 「2025年半導体市場展望」

インフォマインテリジェンス合同会社
シニア コンサルティング ディレクター

南川 明 氏

16:45-16:55 閉会挨拶： NEDIA 理事・副会長

鶴丸 哲哉 氏

●新年会

日時：2025年1月27日(月) 17:00-18:40

場所：喜山倶楽部 飛鳥の間

ビンゴ大会を実施

参加者：セミナー：96名、新年会：105名

●新春記者会見

日時：2025年1月27日(月) 16:20-16:50 喜山倶楽部 芙蓉の間にて記者会見実施

齋藤昇三 代表理事・会長から 2025年度の抱負及び電子デバイス戦略マップ 2025-2026 について説明しました。

8. 情報提供事業

(1) 定期刊行物の発行

NEDIA マガジンを、2024年7月(第27号)、2025年1月(第28号)の2回発行しました。

会員名簿を2024年7月に発行しました。

NEDIA マガジン、会員名簿への広告募集を行い、会員から申し込まれました。

(2) ホームページの展開・メール配信

NEDIA のホームページは随時変更して会員に新しい情報を提供しました。

HP における広告の募集を行い、会員から申し込まれました。

セミナー等のイベント情報及び関係省庁からの通達等を適宜、会員にメール配信しました。

9. 事務局報告

(1) 会員状況(2025年3月31日現在)

正会員：169 賛助会員：27 個人会員：64 会員総数：260

2013年9月30日 NEDIA 発足時の198会員から62会員(31%)増加しました。

(2) 事務局の状況 専任：2名、嘱託：1名、ボランティア：1名

(3) 理事・監事・顧問(2024年3月31日現在)

理事：21名、監事：2名、顧問：3名

<理事・監事・顧問>

*は常勤役員

役職名	氏名	所属
理事(代表理事・会長)	齋藤 昇三	(一社)日本電子デバイス産業協会
理事(副会長)	泉谷 渉	(株)産業タイムズ社 取締役会長
理事(副会長)	岩坪 浩	(株)村田製作所 代表取締役 副社長
理事(副会長、ベンチャー部会長)	押部 弘	(株)東設 代表取締役社長
理事(副会長)	瀬川 澄江	東京エレクトロン(株) 執行役員 Corporate Innovation 本部 ディビジョンオフィサー
理事(副会長)	鶴丸 哲哉	元 ルネサスエレクトロニクス(株) 代表取締役会長
理事(副会長、 装置・保守部会長)	南 洋一	リソテックジャパン(株) 代表取締役
理事(常務理事・事務局長、 デバイス部会長)	周藤 仁吉*	(一社)日本電子デバイス産業協会
理事(東北 NEDIA 副代表)	相原 正巳	アルプスアルパイン(株) 執行役員 CTO コンポーネント事業担当
理事 (ベンチャー部会副部会長)	小篠 隆宏	ケイレックス・テクノロジー(株) 代表取締役社長
理事(東北 NEDIA 代表)	川添 良幸	東北大学 未来科学技術共同研究センター シニアリサーチ・フェロー
理事	北村 隆幸	メテック(株) 代表取締役社長
理事(九州 NEDIA 代表)	櫻井 一郎	櫻井精技(株) 代表取締役社長
理事(デバイス部会副部会長)	佐々木 元	(株)メガチップス 理事 ASIC 事業本部 副事業本部長
理事(材料部品部会長)	佐藤 中則	(株)野毛電気工業 代表取締役社長
理事	清水 孝雄	アーズ(株) 代表取締役社長
理事	千葉 芳弘	日総工産(株) 人財育成部 スペシャリスト
理事(関西 NEDIA 代表、 デバイス部会副部会長)	中村 孝	ネクスファイ・テクノロジー(株) 代表取締役社長、 大阪大学 教授
理事	西村 光太郎	元 (株)日立製作所 半導体グループ 甲府製造本部長
理事	南部 修太郎	(株)アセット・ウィッツ 代表取締役
理事(九州 NEDIA 副代表)	三宅 賢治	オフィス三宅 代表
監事	釜原 紘一	元 三菱電機(株)半導体マーケティング 部長
監事	川端 章夫	(株)ドットインターナショナル 代表取締役社長
顧問	飯塚 哲哉	ザインエレクトロニクス(株) 代表取締役会長
顧問	河崎 達夫	元 (株)システム LSI センター 代表取締役
顧問	垂井 康夫	東京農工大学 名誉教授

2024年度

決算報告書

自 2024年4月 1日

至 2025年3月31日

目 次

I 貸借対照表

II 正味財産増減計算書

III 財務諸表に対する注記

IV 附属明細書

V 財産目録

千代田区神田佐久間町 2 - 1 3
一般社団法人日本電子デバイス産業協会

I 貸借対照表

2025年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1.流動資産			
現 金 預 金	7,417,068	7,698,935	△ 281,867
棚 卸 資 産	2,646,800	2,294,433	352,367
前 払 金	547,107	907,997	△ 360,890
未 収 金	604,156	26,500	577,656
流動資産合計	11,215,131	10,927,865	287,266
2.固定資産			
(1)特定資産			
退職給付引当資産	1,591,198	1,590,000	1,198
新事業創生基金	1,000,000	1,000,000	0
特定資産合計	2,591,198	2,590,000	1,198
(2)その他固定資産			
什 器 備 品	3	3	0
敷 金	533,336	533,336	0
投 資 有 価 証 券	100,000	100,000	0
その他固定資産合計	633,339	633,339	0
固定資産合計	3,224,537	3,223,339	1,198
資産合計	14,439,668	14,151,204	288,464
II 負債の部			
1.流動負債			
未 払 金	6,683	4,961	1,722
前 受 金	1,335,700	2,371,400	△ 1,035,700
預 り 金	85,512	85,893	△ 381
流動負債合計	1,427,895	2,462,254	△ 1,034,359
2.固定負債			
退職給付引当金	1,590,000	1,590,000	0
固定負債合計	1,590,000	1,590,000	0
負債合計	3,017,895	4,052,254	△ 1,034,359
III 正味財産の部			
1.指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2.一般正味財産			
一般正味財産合計	11,421,773	10,098,950	1,322,823
正味財産合計	11,421,773	10,098,950	1,322,823
負債及び正味財産合計	14,439,668	14,151,204	288,464

II 正味財産増減計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1.経常増減の部			
(1)経常収益			
入会金・会費収入	[25,260,832]	[24,955,229]	[305,603]
入会金・会費収入	25,260,832	24,955,229	305,603
事業収入①	[4,584,945]	[4,431,962]	[152,983]
セミナー事業	2,037,000	2,414,957	△ 377,957
共同研究及び会員交流	1,921,000	1,108,000	813,000
新規事業	626,945	909,005	△ 282,060
事業収入②	[9,943,180]	[10,292,885]	[△ 349,705]
フォーラム参加費	7,688,180	7,576,925	111,255
展示会出展費	2,167,000	2,123,000	44,000
協賛会	0	504,960	△ 504,960
その他	88,000	88,000	0
事業収入③	[3,409,990]	[3,653,775]	[△ 243,785]
入門講座	799,250	1,936,500	△ 1,137,250
基礎講座	914,270	598,950	315,320
中級講座	0	541,725	△ 541,725
専門講座	239,800	576,600	△ 336,800
特別講座	1,456,670	0	1,456,670
受取利息	[10,227]	[174]	[10,053]
寄附金	[10,000]	[0]	[10,000]
雑収益	[0]	[710,000]	[△ 710,000]
経常収益計	43,219,174	44,044,025	△ 824,851
(2)経常費用			
事業費①	[16,981,272]	[17,245,063]	[△ 263,791]
セミナー事業(本部)	437,502	467,758	△ 30,256
セミナー事業(部会及び地域)	876,571	1,757,123	△ 880,552
情報提供事業	1,162,510	1,143,958	18,558
共同研究及び技術・人・事業の交流機会提供	4,642,070	5,222,092	△ 580,028
ベンチャー事業環境改善	69,912	153,962	△ 84,050
新規事業開発費	1,825,183	678,627	1,146,556
人材育成研修	0	5,326	△ 5,326
支払手数料	80,680	73,960	6,720
給料手当	6,665,000	6,494,600	170,400
通信費	313,726	349,350	△ 35,624
事務消耗品費	13,005	20,840	△ 7,835
業務委託費	624,800	609,400	15,400
その他	270,313	268,067	2,246
事業費②	[9,007,975]	[9,222,547]	[△ 214,572]
事業運営費	(8,573,463)	(8,784,223)	(△ 210,760)
会場費用	2,297,597	2,959,587	△ 661,990
ブース装飾費	1,720,620	1,420,916	299,704
講師謝礼	1,817,931	1,602,725	215,206
予稿集印刷費	1,683,000	1,672,000	11,000
WEB製作費	66,000	66,000	0
広告費	110,000	110,000	0
運営スタッフ費	177,656	133,702	43,954
委員会スタッフ費	677,311	819,293	△ 141,982
その他	23,348	0	23,348
事業管理費	(434,512)	(438,324)	(△ 3,812)
事務局員給与	22,406	4,698	17,708
旅費・交通費	266,110	283,524	△ 17,414
通信費	51,328	48,532	2,796
事務消耗品費	17,118	13,490	3,628
会議・交際費	40,920	41,960	△ 1,040
支払手数料	33,630	46,120	△ 12,490
租税公課	3,000	0	3,000
事業費③	[4,322,146]	[4,367,205]	[△ 45,059]
事業運営費	(3,725,565)	(3,277,733)	(447,832)
会場費用	1,275,830	1,101,360	174,470
講師謝礼	1,543,409	1,240,412	302,997
テキスト印刷費	772,860	771,480	1,380
運営スタッフ費	51,948	0	51,948
委員会スタッフ費	81,518	164,481	△ 82,963
事業管理費	(596,581)	(1,089,472)	(△ 492,891)
旅費・交通費	39,121	30,948	8,173
通信費	36,223	52,359	△ 16,136
事務消耗品費	6,037	2,666	3,371
会議・交際費	0	179	△ 179
支払手数料	15,200	8,320	6,880
業務委託費	500,000	995,000	△ 495,000
管理費	[11,580,958]	[10,242,634]	[1,338,324]
事務局員給与	2,793,000	2,570,400	222,600
旅費・交通費	981,770	871,802	109,968
事務所家賃	1,760,004	1,906,671	△ 146,667
光熱費	167,010	174,251	△ 7,241
通信費	162,744	170,053	△ 7,309
事務消耗品費	83,093	62,089	21,004
会議・交際費	338,095	446,620	△ 108,525
支払手数料	36,740	26,296	10,444
租税公課	1,145,559	195,621	949,938
法定福利費	1,121,424	855,244	266,180
業務委託費	1,681,048	1,615,048	66,000
支払寄附金	0	300,000	△ 300,000
その他	1,310,471	1,048,539	261,932
経常費用計	41,892,351	41,077,449	814,902
評価損益等調整前当期経常増減額	1,326,823	2,966,576	△ 1,639,753
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,326,823	2,966,576	△ 1,639,753
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
徴収不能額	4,000	12,000	△ 8,000
経常外費用計	4,000	12,000	△ 8,000
当期経常外増減額	△ 4,000	△ 12,000	8,000
当期一般正味財産増減額	1,322,823	2,954,576	△ 1,631,753
一般正味財産期首残高	10,098,950	7,144,374	2,954,576
一般正味財産期末残高	11,421,773	10,098,950	1,322,823
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	11,421,773	10,098,950	1,322,823

Ⅲ 財務諸表に対する注記

1. 継続組織の前提に関する注記

該当なし。

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券……すべて時価がないため、移動平均法による原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

棚卸資産については、最終仕入原価法を採用している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

什器備品については、定額法を採用している。

(4) 引当金の会計処理

退職給付引当金…職員に対する退職金の支払に備えたものとして計上している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式を採用している。

3. 重要な会計方針の変更

該当なし。

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
退職給付引当資産	1,590,000	1,198	0	1,591,198
新事業創生基金	1,000,000	0	0	1,000,000
合 計	2,590,000	1,198	0	2,591,198

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの 充当額)	(うち一般正味財産からの 充当額)	(うち負債に 対する額)
特定資産				
退職給付引当資産	1,591,198	-	-	(1,591,198)
新事業創生基金	1,000,000	(-)	(1,000,000)	(-)
合 計	2,591,198	(0)	(1,000,000)	(1,591,198)

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什 器 備 品	458,950	458,947	3
合 計	458,950	458,947	3

7. その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態及び正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

資産除去債務に関する注記

当法人は事務所に係る不動産賃貸借契約に基づき、退去時における現状回復義務を有している。

しかし、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確でなく、かつ、将来移転等の予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができない。

そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していない。

IV 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、省略。

2. 引当金の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、省略。

V 財産目録

2025年3月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量数	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金預金	手元保管	運転資金として	527,518
		普通預金		
		みずほ銀行日本橋支店	運転資金として	4,334,329
		三菱UFJ銀行室町支店	運転資金として	2,555,221
	棚卸資産	在庫として1287部	戦略MAP2015 (20冊×@1,386) 戦略MAP2017 (20冊×@1,132) 戦略MAP2018 (20冊×@1,226) 戦略MAP2019 (20冊×@1,368) 戦略MAP2020-2021 (20冊×@1,514) 戦略MAP2021-2022 (40冊×@1,907) 戦略MAP2022-2023 (200冊×@1,951) 戦略MAP2023-2024 (400冊×@2,111) 戦略MAP2024-2025 (547冊×@2,200)	2,646,800
	前払金	SEMIジャパンに対するもの等	メンバーシップ年会費、事務局の4月家賃他	547,107
	未収金	16件	年会費他	604,156
流動資産合計				11,215,131
(固定資産)				
特定資産				
	退職給付引当資産	みずほ銀行日本橋支店	職員の退職金の支払いに備えたもの	1,591,198
	新事業創生基金	みずほ銀行日本橋支店	将来的な新事業の実施を見据えたもの	1,000,000
その他固定資産				
	什器備品	ネット配信用パソコン他	継続事業、その他事業及び法人の管理運営の用に供している	3
	敷金	竹内ビルに対するもの	事務局に係るもの	533,336
	投資有価証券		エヌメディアイ(株)	100,000
固定資産合計				3,224,537
資産合計				14,439,668
(流動負債)				
	未払金		ヤマト運輸配送料他	6,683
	前受金	会員に対するもの等	2025年度会費他	1,335,700
	預り金	従業員及び講師に対するもの	源泉所得税	85,512
流動負債合計				1,427,895
(固定負債)				
	退職給付引当金	従業員に対するもの	職員に対する退職金の支払に備えたもの	1,590,000
固定負債合計				1,590,000
負債合計				3,017,895
正味財産				11,421,773

2025年4月18日

一般社団法人 日本電子デバイス産業協会
代表理事・会長 齋藤 昇三 殿

一般社団法人 日本電子デバイス産業協会

監事 釜原 紘一

監事 川端 章夫

監査報告書

私たち監事は、2024年4月1日から2025年3月31日までの当法人の事業年度の理事の職務の執行について監査を行いましたので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第99条第1項の規定に基づき本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及びその使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、書類等を閲覧し、当法人の事務所において業務及び財産の状況を調査しました。

以上の方法によって、当該年度に係る事業報告及びその附属明細書を監査しました。

さらに会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該年度に係る計算書類及びその附属明細書について監査しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は当法人の財産及び損益の状況をすべて重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以上

一般社団法人日本電子デバイス産業協会 2025年度事業計画(案)
(2025年4月1日～2026年3月31日)

一般社団法人日本電子デバイス産業協会

2025年度は、ウクライナの問題及び中東情勢を鎮静化する動きもあるが、地政学的なリスクの長期化も予想され、世界経済の見直しにはまだ不透明感が漂うと思われま

す。電子デバイスにおいては、DX、GXが同時進行する社会に本格的に移行するという見方もあり、また、経済安全保障に向けて半導体の競争力復活のための具体策も出てきており、電子デバイスの大きな成長が期待されています。

こういった中で、NEDIAは次の10年に向けて進んでいくわけですが、外部環境の変化に注意をはらいながら、オールジャパン体制で横断的な種々の業種の有機的連携を深め、草の根的にオープンイノベーションを進めていくという初志の施策を推進し、初志の具現化を図り新たな時代に向けて、着実に発展していく基盤の構築を目指す年度にしていきたいと考えます。

そのために、300会員を目指した会員拡大を進めるとともにオールジャパン体制の確立、「第12回電子デバイスフォーラム京都」の開催、「電子デバイス戦略マップ2025-2026」の発行・説明会の実施と活用、電子デバイス研修講座のニーズに対応した積極的運営、新事業創生活動等により横断的戦略機能を発揮していくとともに、新しい施策の検討も進めていきたいと考えています。会員の皆様とのコミュニケーションの場を増やすことも考え、さらに会員支援及び産業界支援につながる諸施策を着実に推進していきます。これを実現していくためには、財務基盤の整備が重要で、新事業による収入増を図るとともに、イベント等の収支確保等を図り、期末正味財産残高を積み増していきたいと、会員の皆様方のご協力・ご支援をお願い致します。

1. 組織の拡大

(1) 会員数の拡大

海外を含めて300会員の実現を目指します。業務執行理事を中心とした役員全員で、会員拡大活動を強力に推進していきます。

(2) オールジャパン体制の推進

- ① 現在の4拠点(東北、関東、関西、九州)のさらなる活性化及び各地域での日本半導体復活の動きに連携していきます。
- ② アプリ分野も含めNEDIAのカバー分野における業界団体等との連携強化、各地域の団体及び各業界の団体との連携を進めていきます。

2. 第12回電子デバイスフォーラム京都の開催

- ① 2024年度に引き続き2025年度も電子デバイスフォーラム京都を開催します。

開催予定日：2024年10月31日(木)、11月1日(金)、場所：京都リサーチパーク(KRP)

- ③ 組織委員長：鶴丸哲哉 理事・副会長、プログラム委員長：中村孝 理事・関西NEDIA代表の体制で進めます。
- ④ 第11回の成功点、反省点を踏まえて、魅力あるプログラムを策定しプロモートの仕方等も改善し参加者数を確保するとともに、費用削減を図り、収支プラスを確実に確保する施策を推進しま

す。

- ⑤ 第 11 回は Teams による WEB 配信を併用して実施しましたが、実施における負荷が大きく、また WEB での参加の比率が 10% 台に下がってきているため、第 12 回は WEB 配信の併用を中止したいと考えています。
- ⑥ 展示会は、引き続き実施していく考えですが、会場である KRP の会場配置の変更も予想され、それに見合った運営をしていきたいと考えています。

3. 「電子デバイス戦略マップ 2025-2026」の発行及び活用

(戦略マップ委員会(委員長：鶴丸哲哉 理事・副会長))

- ① 2024 年度から 2025 年度にかけてまとめた「電子デバイス戦略マップ 2025-2026」のレポートを 2025 年 7 月に発行し、会員その他に参照いただき、それぞれで活用いただけるようにします。2024 年度に引き続き戦略マップの説明会を実施し、関係者に戦略マップの内容を理解いただくことによって、戦略マップを役立てていきたいと考えています。
- ② 戦略マップは 2016 年から 9 冊発行してきましたが、10 冊目となる電子デバイス戦略マップ 2025-2026 は、アフターコロナで変化する未来社会をイメージアップし、未来社会を創る技術・事業を俯瞰し、電子デバイス産業が目指す新しい価値で作る未来社会を可視化し、未来社会の実現につなげる注目技術の評価をきちんと行い、明確にしていくことを主眼としてまとめています。
- ③ 戦略マップでの評価の高い技術の中から、2025 年度は 2024 年度に引き続き AI 関連のテーマを選び、デバイス部会、新事業創生委員会等と連携して研究会・勉強会の具体的立ち上げを推進していきたいと考えています。さらにテーマの深堀りを行うとともに解を具体的に求めていき、会員の新事業創生への寄与を図る方向で進めて行きたいと考えております。
- ④ NEDIA で書籍コードをとり、アマゾン等での販売を可能にして、外部への販売増を目指します。
- ⑤ 2025 年度の委員会活動は、「電子デバイス戦略マップ 2026-2027」の発行に向けて引き続き未来社会(2030 年)をテーマに、その実現に向け、バックキャストで整理し、変化する未来社会のイメージアップを図り、未来社会の実現につなげる技術を提示していきます。

4. 「電子デバイス研修講座」のニーズに合った戦略的運営の推進

(人材育成研修委員会(委員長：西村光太郎 理事))

電子デバイス産業にかかわる人材のスキルアップ・底上げをしていくことは、電子デバイス産業発展のための重要事項ですので、それを研修講座等で強力的に推進していきます。2019 年 11 月に電子デバイス研修講座(基礎編)を立ち上げ、2020 年度に(中級編)を加え、2021 年度に(専門編)も立ち上げ、2022 年度は入門講座の立ち上げも含めさらなる体系化・拡充を進め、ほぼ目指した体系を完成させてきました。受講者のニーズは日本の電子デバイス産業復活の動きの中で変化しつつあり、2024 年度には(中級編)を(特別編 A)(特別編 B)に改組しましたが、今後のニーズの変化を注視しながら、(専門編)の世に受けるテーマでの運営等、NEDIA ならではの効果的な運営をしていくことを目指します。

① 電子デバイス研修講座の有効な運営の推進

電子デバイス研修講座について、(入門編)・(基礎編)・(特別編 A)・(特別編 B)、(専門編)の構成で、世の中のニーズに合わせた有効な運営を行ってまいります。(専門編)のテーマの検討を行っていきたく考えています。

- ② 2020 年度～2022 年度は新型コロナウイルス感染防止対応として Teams による WEB 配信または WEB 配信併用で電子デバイス研修講座を実施しましたが、引き続き 2025 年度も WEB 配信併用を実施し、特に遠隔地からの参加の利便を図っていきます。
- ③ 人材育成研修委員会としては、有効な運営方法の確立・実施に注力する必要がある、事務局も含めた負担軽減のために、運営効率の向上策を検討し、全体的な効率向上を図っていきます。
- ④ 大学及び他団体との連携を推進
優秀な技術者に電子デバイス産業にかかわっていただくことは、電子デバイス産業発展にとって非常に重要です。大学及び他団体との連携により、参加いただける可能性を高める施策の検討を進めます。九州経済産業局主導で立ち上げる半導体人材育成の産官学のコンソーシアムと連携していくことも考えていきます。
また、(専門編)の一つであるミニマルファブによる体験講座は工程の一部であり、フル工程の体験講座については、(一社)ミニマルファブ推進機構と共同での開催を検討していきます。
- ⑤ 電子デバイス産業にかかわる資格・検定・リカレント教育等へのアプローチ
中期的事項として、資格・検定・リカレント教育等の実現に向けて、検討を続けていきたいと考えています。

5. 新たな事業の立ち上げ (新事業創生委員会(委員長：南洋一 理事・副会長))

- ① NEDIA の新事業を立ち上げることにより事業収入を得て、NEDIA の財務基盤の強化を図ります。
- ② 幅広い会員及び非会員も含めたニーズ・シーズをすり合わせる機会を作り会員相互の連携から新しい製品・事業を創生する手助けをします。
- ③ 戦略マップ委員会、ベンチャー部会、デバイス部会等と連携し、アイテムを探していきます。

6. 展示会への出展 (展博委員会(委員長：井内伸哉 (㈱インターテック販売 顧問))

- ① セミコンジャパン 2025、Medtec Japan2025 は例年通りに出展していく予定です。
- ② NEDIA としての出展の企画・運営を行うとともに、NEDIA ブースでの会員のポスター展示、PR 資料の置き置き等で会員の PR のお手伝いをします。
- ③ 電子デバイスフォーラム京都のように展示を含んだイベントの展示部分の企画・運営を行います。
- ④ 「電子デバイスフォーラム京都」に加え、新しいロケーションでの数年後の開催の検討をします。

7. 部会・地域活動

(1) ベンチャー部会 (部会長：押部弘 理事・副会長)

- ① 毎回 10～30 人程度の参加でベンチャー交流会を適宜開催し、会員の紹介・交流会等で密なコミュニケーションを行い、会員間の具体的な連携等で新しい展開を図っていきます。
- ② ベンチャー会員の支援についての施策を推進します。法務相談会、税務相談会等、必要なアイテムを徐々に拡大します。
- ③ 国・自治体等のベンチャー企業・中小企業支援のプログラムの説明会・紹介を行います。
- ④ 新事業創生委員会・事務局等と連携し、ベンチャー会員と大企業との橋渡しのお手伝いをします。
- ⑤ 会員間のコミュニケーションを高めるために、ゴルフコンペ、納涼会の開催をします。

(2) 装置・保守部会 (部会長：南洋一 理事・副会長)

- ① 会員間のコミュニケーション向上のためのイベント開催を検討していきます。
- ② 会員及び非会員からのニーズの紹介およびそれに対する会員の対応のつなぎ等、必要に応じて技

術情報交換会・見学会を企画していきます。

(3) 材料部品部会 (部会長：佐藤中則 理事)

部会にとって必要な情報を選択し、それに沿った勉強会を企画・運営することによって、会員の情報取得に寄与します。

(4) デバイス部会 (部会長：齋藤昇三 理事)

- ①NEDIA の中核の電子デバイス分野での活動を行います。
- ②電子デバイスの分野で重要課題についてテーマを定め、研究会方式で解を見つけていくことを考えます。2025年度は電子デバイス戦略マップから AI 関連をテーマに選択し、研究会・勉強会・プロジェクトを構成して推進します。

(5) 九州 NEDIA (代表：櫻井一郎 理事)

- ①NEDIA Day 九州を企画・運営します。2025年度は福岡での開催を企画しています。
- ②九州における NEDIA の趣旨に賛同する団体との連携を進めます。

(6) 関西 NEDIA (代表：中村 孝 理事)

- ①NEDIA Day 関西を大阪及び有効な場所で企画・運営します。
- ②関西における NEDIA の趣旨に賛同する団体との連携を進めます。
- ③可能な範囲で電子デバイスフォーラム京都のサポートを行います。
- ④SSIS との共催シンポジウムを大阪で開催します。

(7) 東北 NEDIA (代表：川添良幸 理事)

- ①NEDIA Day 東北を仙台及び東北各県で企画・運営します。2025年度は、青森での開催を企画しています。
- ②東北における NEDIA の趣旨に賛同する団体との連携を進めます。

8. 委員会活動の推進

(1) アクションセミナー委員会 (委員長：甕秀樹(株)産業タイムズ社)

- ①アクションセミナーについて、旬な分野・テーマを選択し、会員に新情報を提供していきます。
- ② アクションセミナーならではの運営について検討していき、適宜実施していきます、

(2) 成長産業交流委員会 (委員長：鶴丸哲哉 理事・副会長)

- ①他団体との連携及びアライアンス等の検討・実施を行います。
- ②経済産業省とは緊密に連携をとって、提案、受託及びプロジェクトへの参画を行います。
- ③NEDO とは緊密に連携して、プロジェクトへの参画及び戦略マップでの協調を図ります。
- ④SSIS とは、連携可能なアイテムにおいて連携していきます。
- ⑤SEMI ジャパン等とは展示会を通じた連携を進めます。

(3) 電子デバイス・応用システム設計環境委員会 (委員長：小篠隆宏 理事)

電子デバイス、応用システムの設計活動において、電子デバイス産業の拡大に寄与する設計環境の枠組みを検討していきます。

(4) コンプライアンス委員会 (委員長：漆原育子 (アーズ㈱ 取締役))

- ①新事業立ち上げにあたって独禁法等の法的課題を顧問弁護士と連携して対応していきます。
- ②ベンチャー部会と連携して、知的所有権でのサポートの進め方の検討をしていきます。

(5) IR 広報委員会 (委員長：堀 徹)

- ①HP の改善を継続して進めます。
- ②HP、NEDIA マガジンでの広告について、新事業創生委員会と連携して進めます。
- ③NEDIA 施策で広報を行ったが良いものについては、積極的にアプローチします。

9. 情報提供事業

(1) 定期刊行物の発行

NEDIA マガジン：年 2 回発行の予定です。

会員名簿の発行：2025 年版を発行します。

(2) ホームページの運営：継続して、内容の拡充を図ってまいります。

イベント情報及び関係省庁の通達等は適宜会員にメール配信します。

10. 事務局・顧問体制

(1) 事務局は、専任 3 名、嘱託 1 名、ボランティア 1 名体制で推進します。

(2) 全顧問は任期満了につき、飯塚哲哉、河崎達夫、垂井康夫の 3 名を重任とします。

2025年度正味財産増減計算書(予算案)

第4号議案

(単位:円)

科 目	24年度予算(A)	24年度実績(B)	25年度予算案(C)	予算比 (C/A)	見込比 (C/B)
I 一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
入金・会費収入	25,250,000	25,260,832	25,360,000	100.4%	100.4%
特別会費収入	300,000	140,000	300,000	100.0%	214.3%
入会費収入	100,000	0	100,000	100.0%	0.0%
正会員会費収入	22,700,000	22,748,166	22,700,000	100.0%	99.8%
賛助人会費収入	1,400,000	1,626,666	1,610,000	115.0%	99.0%
個人会費収入	750,000	746,000	650,000	86.7%	87.1%
事業収益	5,050,000	4,584,945	5,050,000	100.0%	110.1%
事業提供	2,500,000	2,037,000	2,500,000	100.0%	122.7%
事業委託	50,000	0	50,000	100.0%	0.0%
事業参加	1,500,000	1,921,000	1,500,000	100.0%	78.1%
事業参加費	1,000,000	626,945	1,000,000	100.0%	159.5%
事業参加費	7,600,000	7,688,180	7,500,000	98.7%	97.6%
事業参加費	2,000,000	2,167,000	2,000,000	100.0%	92.3%
事業参加費	150,000	88,000	150,000	100.0%	170.5%
事業参加費	5,100,000	3,409,990	5,100,000	100.0%	149.6%
事業参加費	2,200,000	799,250	1,300,000	59.1%	162.7%
事業参加費	750,000	914,270	1,000,000	133.3%	109.4%
事業参加費	750,000	1,456,670	1,300,000	173.3%	89.2%
事業参加費	1,400,000	239,800	1,500,000	107.1%	107.1%
事業参加費	1,000	10,227	1,000	100.0%	9.8%
事業参加費	100,000	10,000	100,000	100.0%	10.0%
経常収益計	45,251,000	43,219,174	45,261,000	100.0%	104.7%
(2) 経常費用					
事業費用	18,465,000	16,981,272	18,365,000	99.5%	108.1%
事業費用	600,000	437,502	600,000	100.0%	137.1%
事業費用	1,500,000	876,571	1,500,000	100.0%	171.1%
事業費用	1,300,000	1,162,510	1,300,000	100.0%	111.8%
事業費用	4,000,000	4,642,070	4,000,000	100.0%	86.2%
事業費用	150,000	69,912	100,000	66.7%	143.0%
事業費用	1,300,000	1,825,183	1,300,000	100.0%	71.2%
事業費用	100,000	0	100,000	100.0%	0.0%
事業費用	100,000	80,680	100,000	100.0%	123.9%
事業費用	7,900,000	6,665,000	7,900,000	100.0%	118.5%
事業費用	300,000	313,726	300,000	100.0%	95.6%
事業費用	15,000	13,005	15,000	100.0%	115.3%
事業費用	750,000	624,800	950,000	126.7%	152.0%
事業費用	450,000	270,313	200,000	44.4%	74.0%
事業費用	9,110,000	9,007,975	9,210,000	101.1%	102.2%
事業費用	8,650,000	8,573,463	8,750,000	101.2%	102.1%
事業費用	2,600,000	2,297,597	2,600,000	100.0%	113.2%
事業費用	1,450,000	1,720,620	1,450,000	100.0%	84.3%
事業費用	1,700,000	1,817,931	1,800,000	105.9%	99.0%
事業費用	1,700,000	1,683,000	1,700,000	100.0%	101.0%
事業費用	70,000	66,000	70,000	100.0%	106.1%
事業費用	110,000	110,000	110,000	100.0%	100.0%
事業費用	150,000	177,656	150,000	100.0%	84.4%
事業費用	850,000	677,311	850,000	100.0%	125.5%
事業費用	20,000	23,348	20,000	100.0%	100.0%
事業費用	460,000	434,512	460,000	100.0%	105.9%
事業費用	0	22,406	0	0.0%	0.0%
事業費用	300,000	266,110	300,000	100.0%	112.7%
事業費用	30,000	51,328	30,000	100.0%	58.4%
事業費用	10,000	17,118	10,000	100.0%	58.4%
事業費用	60,000	40,920	60,000	100.0%	146.6%
事業費用	50,000	33,630	50,000	100.0%	148.7%
事業費用	0	0	0	0.0%	0.0%
事業費用	10,000	3,000	10,000	100.0%	10.0%
事業費用	4,960,000	4,322,146	4,960,000	100.0%	114.8%
事業費用	3,675,000	3,725,565	3,675,000	100.0%	98.6%
事業費用	1,250,000	1,275,830	1,250,000	100.0%	98.0%
事業費用	1,350,000	1,543,409	1,350,000	100.0%	87.5%
事業費用	950,000	772,860	950,000	100.0%	122.9%
事業費用	20,000	51,948	20,000	100.0%	100.0%
事業費用	100,000	81,518	100,000	100.0%	122.7%
事業費用	5,000	0	5,000	100.0%	0.0%
事業費用	1,285,000	596,581	1,285,000	100.0%	215.4%
事業費用	30,000	39,121	30,000	100.0%	76.7%
事業費用	70,000	36,223	70,000	100.0%	193.2%
事業費用	5,000	6,037	5,000	100.0%	82.8%
事業費用	10,000	0	10,000	100.0%	0.0%
事業費用	15,000	15,200	15,000	100.0%	98.7%
事業費用	1,150,000	500,000	1,150,000	100.0%	230.0%
事業費用	5,000	0	5,000	100.0%	0.0%
事業費用	11,270,000	11,580,958	11,870,000	105.3%	102.5%
事業費用	3,200,000	2,793,000	3,200,000	100.0%	100.0%
事業費用	1,300,000	981,770	1,300,000	100.0%	132.4%
事業費用	2,000,000	1,760,004	2,000,000	100.0%	113.6%
事業費用	120,000	167,010	120,000	100.0%	71.9%
事業費用	150,000	162,744	150,000	100.0%	92.2%
事業費用	100,000	83,093	100,000	100.0%	120.3%
事業費用	300,000	338,095	300,000	100.0%	88.7%
事業費用	50,000	36,740	50,000	100.0%	136.1%
事業費用	800,000	1,145,559	800,000	100.0%	69.8%
事業費用	950,000	1,121,424	950,000	100.0%	84.7%
事業費用	1,600,000	1,681,048	1,700,000	106.3%	101.1%
事業費用	700,000	1,310,471	1,200,000	171.4%	91.6%
経常費用計	43,805,000	41,892,351	44,405,000	101.4%	106.0%
評価損益等調整前当期経常増減額	1,446,000	1,326,823	856,000	59.2%	64.5%
当期経常増減額	1,446,000	1,326,823	856,000	59.2%	64.5%
当期経常外増減額	0	△ 4,000	0		
当期一般正味財産増減額	1,446,000	1,322,823	856,000	59.2%	64.7%
一般正味財産期首残高	10,098,950	10,098,950	11,421,773	113.1%	113.1%
一般正味財産期末残高	11,544,950	11,421,773	12,277,773	106.3%	107.5%
II 指定正味財産増減の部					
当期指定正味財産増減額	0	0	0		
指定正味財産期首残高	0	0	0		
指定正味財産期末残高	0	0	0		
III 正味財産期末残高	11,544,950	11,421,773	12,277,773	106.3%	107.5%

第5号議案

役員体制について

現在の理事21名及び監事2名は全員任期満了となりますが、全員重任となります。
理事1名が新任となります。

(50音順)

役職名	氏名		所属
理事	相原 正巳	重任	アルプスアルパイン(株) 執行役員CTO コンポーネント事業担当
理事	泉谷 渉	重任	(株)産業タイムズ社 取締役会長
理事	岩坪 浩	重任	(株)村田製作所 代表取締役 副社長
理事	小篠 隆宏	重任	ケイレックス・テクノロジー(株) 代表取締役社長
理事	押部 弘	重任	(株)東設 代表取締役社長
理事	川添 良幸	重任	東北大学未来科学技術共同研究センター シニアリサーチ・フェロー
理事	北村 隆幸	重任	メテック(株) 代表取締役社長
理事	齋藤 昇三	重任	(一社)日本電子デバイス産業協会
理事	櫻井 一郎	重任	櫻井精技(株) 代表取締役社長
理事	佐々木 元	重任	(株)メガチップス 理事 ASIC事業本部 副事業本部長
理事	佐藤 中則	重任	(株)野毛電気工業 代表取締役社長
理事	清水 孝雄	重任	アーズ(株) 代表取締役社長
理事	周藤 仁吉	重任	(一社)日本電子デバイス産業協会
理事	瀬川 澄江	重任	東京エレクトロン(株) 執行役員 Corporate Innovation本部 ディビジョンオフィサー
理事	千葉 芳弘	重任	日総工産(株) 人財育成部 スペシャリスト
理事	鶴丸 哲哉	重任	住友精密工業(株) 代表取締役社長執行役員
理事	中村 孝	重任	ネクスファイ・テクノロジー(株) 代表取締役社長、大阪大学 教授
理事	西村 光太郎	重任	元 日立製作所 半導体グループ 甲府製造本部長
理事	南部 修太郎	重任	(株)アセット・ウィッツ 代表取締役
理事	堀 徹	新任	(一社)日本電子デバイス産業協会
理事	南 洋一	重任	リソテックジャパン(株) 代表取締役
理事	三宅 賢治	重任	オフィス三宅 代表
監事	釜原 紘一	重任	元 三菱電機(株) 半導体マーケティング部長
監事	川端 章夫	重任	(株)ドットインターナショナル 代表取締役社長